

総合的な学習の時間 福祉体験「手話について学ぶ」

座間市立相模中学校

単元（題材）目標

- 共に生きる ～福祉の取り組みを通して～
よりよい生活を共に築いていくために、助け合う心や実践力を養う。

(1) 実施時期 11月30日(水)

(2) 対象（学年等・人数）

第1学年 192名，教職員 9名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：1年所属 9名

外部講師：市内ボランティアサークル
「星の会」 2名



(4) 実施内容

①お話：「手話について」

○聴覚障がいの方の日常生活で、困っていることや、その工夫、また周りで生活する人からの有効な補助についてのお話を、手話通訳を交えて伺う。

②手話体験：教室にて手話実践

○「星の会」の方 2名

○基本的な会話（自己紹介やあいさつ等）

○手話に関する基本的な知識等

◎高齢化社会や障がいの問題に関心を持ち、積極的に関わり共生していこうとする心を育てる。福祉体験学習を通して自分や社会を取り巻く問題・課題を見つけ、それらについて自分がどのように関わっていくかを考えさせる。

(5) 成果

○手話体験を通して、聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。

○実際に手話にふれ、簡単なあいさつ等を行い、あらためて、人と人がつながり、生きていくことの大切さ等を気付かせることができた。

〈生徒感想〈一部抜粋〉〉

・視聴覚障がい者の人たちが物事を伝える手段として使っていることを知ることができた。物を落としたときに気づかないのは大変だと思った。これからは、このような視覚障がい者がいて困っていそうだったら、できたら手話で対応し、できなかつたら筆談など私ができることをして、助けてあげたいと思います。（男子）

・自分は耳が聞こえるけど、耳が聞こえないと、今当たり前にできていたことができなくなってしまったことから、聞こえる幸せや大切さがわかった。今まで手話はとっても難しいものだと思っていただけ、歌を通していろいろな単語がわかるようになったから、もし聴覚障がいの方が困っていたら習ったことをできるようにしたい。（女子）